

10/17 球磨

# 介護施設 コロナで経営深刻

淑徳大学の結城康博教授が実施した「新型コロナ問題における在宅介護サービスの実態調査報告」で、緊急事態宣言が解除されて4カ月以上たった今でも、介護施設で新型コロナウイルスの深刻な影響が続いていることが浮き彫りになりました。

この調査は、9月7日～17日にインターネットを通じ、全国のケアマネジャーやデイサービスの職員らに実施したもので628人が回答しました。

感染を避けるため、デイサービスなどの利用を控えたケースは67

## 利用控え、機能低下も

### 「実態調査報告」

が認知症の進行や歩行能力の低下を招いていました。「ほとんど歩けなくなつた」「転倒見られました。

この調査は、9月7日～17日にインターネットを通じ、全国のケアマネジャーやデイサービスの職員らに実施したもので628人が回答しました。

感染を避けるため、デイサービスなどの利用を控えたケースは67

骨折した」「認知機能の低下により『要支援』から『要介護』となる例があった」など、の記述がありました。シヨートステイを「日数制限」や「条件付き」で利用したケースは36%、「休止」したケースは1・4%でした。事業所の経営状況について、コロナ後に収入が減少したデイサービスは78%に上り、うち21%が、「休・廃業の可能性がある」と回答しました。コロナ対策のため、「支出増で収支が悪化した」「衛生管理費が多くかかる」との声があ

人手不足も深刻です。66%のデイサービス、85%の訪問介護、42%の居宅介護支援事業所で「人手が足りて安などから、31%のデイサービス、36%の訪問介護、21%の居宅介護支援事業所で離職や休職する職員が出ています。「給与が減ったため職員が辞めた」「コロナ感染を懸念し始めたヘルパーが離職しました。また、高齢者に対しては「介護サービスの利用控えをしないよう啓発することが必要だとしています。介護現場での人手不足を解消する方策についての記述も見られました。

調査を実施した結城教授は「介護保険制度が始まり20年たつが、競争原理一辺倒ではうまくいかない」とし

て、△3%以上の介護報酬の引き上げ△介護施設に保健所や公立病院が感染症対策をアドバイスするなど医療と介護の緊密な連携△介護施設内のコロナ感

染症備える公的責任によるシエルター（無症状・軽症感染者の保護施設）の設置」を提案しています。

また、高齢者に対しても「介護サービスの利用控えをしないよう啓発すること」が必要だとしています。介護現場での人手不足を解消する方策についての記述も見られました。

調査を実施した結城教授は「介護保険制度が始まり20年たつが、競争原理一辺倒ではうまくいかない」とし